

パーキンソン病をまだご存じない方もいらっしゃると思いますが、意外と多い病気です。最も目立つ症状は「ふるえ」で、とても寒い日や緊張するような場面では誰しもがふるえますが、そういう環境とは無関係に、自宅でテレビを見ているときや、何か別のことに集中しているときなどに手や足に現れるのが特徴です。そのため病院受診のきっかけとなることが多く、自分では気づかずご家族やお友だちに指摘されるのが典型的です。しかし、ふるえに気づいて病院を受診したときには、もうすでに動作が鈍く、何をするにも時間がかかり、一緒に散歩していても家族について行けないなど、運動緩慢と呼ばれるパーキンソン病の中核的症状を自覚していることが多いためです。ご近所さんやお友だちの症状に気づいたら、ぜひ、私たち脳神経内科への受診を勧めてください。

ことから骨折の危険もあり、高齢者では姿勢異常を来す恐れもあります。現在では運動障害のみならず、便秘や発汗障害、よだれが多くなるなどの自律神経障害や嗅覚障害などの感覚障害、うつ症状などの気分障害、脳神経内科への受診がとて

いわて医療通信 【超高齢化社会を支えるお仕事】

も重要です。

そして病気が進む

ことで薬物療法の効

果が不安定になるこ

ともよく知

られていま

す。その場

合でも治療

方法が確立されてい

て、脳

深部刺激療法や治療薬の持

続経腸療法および持続皮下

注療法などが実施可能で

す。岩手医科大学ではこれ

ら全ての実施が可能な体制

が整っています。これらの

病気であることから、正し

治療経過を把握する必要があります。そのため、自分の主治医とご相談の上で受診をご検討ください。

内丸メディカルセンター
は、紹介状の有無に関わらず受診が可能です。

岩手医科大学
脳神経内科・老年科

前田哲也



5. 意外と多い パーキンソン病

のため病院受診のきっかけ

となることが多く、自分で

は気づかずご家族やお友だ

ちに指摘されるのが典型的

です。しかし、ふるえに気

づいて病院を受診したとき

には、もうすでに動作が鈍

く、何をするにも時間がか

かり、一緒に散歩していて

パーキンソン病はふるえが目立つ症状で、日常生活や仕事に必要な動作が鈍くなる運動障害疾患と呼ばれる病気の代表です。有病率は1000人に1人、70歳以上では100人に1人とされており、高齢者に非常に多いです。転倒の原因になる